平成23年度　第158回　教育研究審議会議事要録

日　時　平成24年3月13日（火）13：30～17：00
場　所　北方キャンパス本館　E701会議室
出席者　近藤学長、岡本副学長、梶原副学長、木原副学長、堀口事務局長、伊藤外国語学部長
吉田経済学部長、松尾文学部長、山本法学部長、龍国際環境工学部長、
漆原基盤教育センター長、横山社会システム研究科長、王マネジメント研究科長、
古賀都市政策研究所長、八百図書館長、田部井学生部長、二宮教務部長、
柳井入試広報センター長、上江洲地域貢献室副室長、廣渡評価室副室長、
真鍋地域創生学類長（伊野地域創生学群長代理）

配布資料
1　平成24年4月教授・准教授昇任人事選考資料
2　特任研究員の選考について
3　早期支援システムの効果と課題分析（平成19～22年度）
4　リスクマネジメント・情報セキュリティポリシー等研修の実施について（通知）
5　事務局組織の改正について

第１号　昇任選考委員会による選考結果の審議について

＊　資料１のとおり、平成24年4月昇任人事（教授昇任については外国語学部１名、経済学部２名、法学部１名、国際環境工学部４名の計８名。准教授昇任については国際環境工学部１名、基盤教育センターひびきの分室１名、マネジメント研究科１名の計３名。）に関して、各選考委員会からの報告がなされ、同報告に基づき昇任候補者の昇任について提案。

（各候補者1名ずつ慎重な審議がなされ、多様な意見が出されたが、候補者全員の昇任が相当と判断された。なお、次のとおり質疑があった。）

●　40代教員の教授昇任にあたっては、「博士号取得」「単著の専門書」「全国規模の学会誌掲載数」の3つのいずれかに該当することを原則とするとしていたのではないか。
○　平成24年4月1日付け昇任人事に関する方針では、これら３項目以外に、教員評価等を参考にして、いずれかの項目において特に業績の高い者を対象とするとしている。教員評価の業績が著しく高く顕著な場合、その点も重視し選考する。
●　教歴換算における休職期間の取り扱いについて、規程等に定めがないため、今後、検討してもらいたい。
○　休職期間の取り扱いについて、今後、規程等で整備する。
●　研究業績のうち、学会での報告内容要旨が学会誌へ掲載された場合、学会報告と同一と判断できるものは、学会誌件数として算定すべきではないのではないか。
○　そのように取り扱うこととする。
●　教員資格選考調書の研究業績欄の「啓蒙書」は、実態に即し、別の表現に変更してはどうか。
○　適切な表現について、検討したい。
●　教員資格選考調書において、大学の研究生であった期間については、学歴欄に記載し、研究生の期間がオーバードクター期間と重複する場合は、教歴欄にも、同期間を記載し、オーバードクターと付記した方が良いのではないか。
○　そのように取り扱うこととする。

【議長】各選考委員会の報告に基づき、各候補者の昇任を承認してよろしいか。
【委員全員】（異議なし）

第２号　特任研究員の選考について

＊　資料2のとおり、国際環境工学部からの申請に基づき、特任研究員10名の選考について提案。

○　すべて現在進行中の研究プロジェクトに関する特任研究員であり、外部研究費による雇用となる。選考候補者 10 名のうち 8 名が更新である。

【議長】提案について、承認してよろしいか。
【委員全員】（異議なし）

報告

①　早期支援システムの効果と課題分析について、資料 3 のとおり報告があった。
②　リスクマネジメント・情報セキュリティポリシー等研修の実施について、資料 4 のとおり報告があった。
③　事務局組織の改正について、資料 5 のとおり報告があった。
④　次回の審議会を 3 月 27 日（火）に開催する予定である旨、報告があった。